

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773100827		
法人名	特定医療法人 清翠会		
事業所名	まきグループホーム 1階		
所在地	大阪府大阪市旭区生江2-14-24		
自己評価作成日	平成24年11月14日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&JigyosyoCd=2773100827-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様だけでなく職員間でもコミュニケーションが図れており、皆が自由に意見を述べられる環境に努めている。入居者様の声に耳を傾け、要望に少しでも近づく事ができるよう職員同士で多くの話し合う機会を持つ事により個別ケアに取り組んでいる。積極的に地域の店、お祭り等の行事にも出掛けて頂く事で、地域の方との関わりが持てるように心掛けている。接遇に力をいれており、接遇標語を作成し、朝の申し送り時に職員で唱和を行っている。ゆったりと居心地の良い場所で安心して過ごして頂け、職員と入居者様の笑顔が多くみられような明るいフロア作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保健、医療、福祉を通して地域住民が安心して暮らして続けられるよう地域に貢献する医療法人が運営する当該ホームは、地域との交流を大切にしながら利用者の生活を支えています。「支える」をテーマにした取り組みは、ゆったりとした居心地のいい場所で安心して過ごしてもらえるような空間作りや居室で安全に安心して移動できるよう平行棒を設置したり、また野球観戦を好きな場所で楽しめるよう支援する等、様々に実践しています。また、管理者が看護師であり利用者の健康管理や状況把握が適切に行われ、利用者や家族の希望で看取りの支援を行える体制が整えられています。職員の接遇マナーにも力を入れ毎月チェックシートで身だしなみや言葉遣い等、自己評価や他者評価を行い振り返り、利用者や家族と信頼関係が深まるような関わりを大切に日々の支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「保健、医療、福祉を通じて地域の皆様の健康で豊かな生活を支援します」と掲げている。入居者様も含めた支援を行っており、毎年品質目標を設定し申し送り時に読み上げ意識を高めている。半期に一度中間評価を行っている	法人の理念の基、独自の理念を作り、今年度は「支える」をテーマに、ゆったりとした居心地のよい場所で安心して過ごせるよう日々の支援を実践しています。朝のミーティングで唱和をし意識づけを行っています。理念の振り返りと確認、評価を年2回行っています。また、入職時には理念について説明し理解を得ています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、回覧版や、運営推進会議で地域の情報をいただいている。地域のお祭りに出店したり、行事に参加し地域の方と交流を図っている。ラジオ体操や防災訓練にも入居者様に参加して頂いている	自治会に加入し回覧板で地域の情報が得られ、祭りや防災訓練に利用者で参加しています。小学校の運動会では、テントが準備されプログラムをいただき見学に行っています。散歩時やホーム前の掃除中に会った方と挨拶を交わしています。ホームの夏祭りには自治会顧問からの挨拶があり、また認知症について啓発活動も行い、地域との繋がりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の店や行事に入居者様と一緒に出掛ける事で、地域の方々にご協力やご理解を頂いている。また当施設の職員が講師となり認知症サポーター養成講座を地域で開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し地域、行政、包括、家族の方に活動状況を報告している。ご意見をいただき活用するようにしている。地域の情報もいただきイベントにも参加させていただいている	会議は、自治会顧問、婦人部副部長、会計、行政、地域包括支援センター職員、家族、利用者等の参加の下、隔月に開催しています。活動内容や状況、防災について等の報告後に意見交換を行っています。非常勤職員の永年勤務の表彰や地域の情報やイベントの案内をもらい地域と交流する機会について等の意見が出される等有意義な会議になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	旭区役所の介護保険課の担当者に運営推進会議にも参加して頂き、グループホームの状況を伝えている。事故が発生したときは行政に届け出を行い対策についても相談しアドバイスをいただく機会がある	運営推進会議の議事録や事故報告書を直接窓口へ持って行き、助言やアドバイスを等協力関係を築くよう取り組んでいます。グループホームネットワーク会議に地域包括センターの職員も出席してもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回身体拘束の研修を行い、拘束について理解を深めることができるようにしている。周知できるようにロッカールームに掲示をしている。各階の玄関の施錠について、日中は施錠をしない取り組みを行っている	身体拘束について実施する研修は、全職員が参加できるように4回に分け、資料を用いたりレポートを提出してもらい、周知しています。気づかない中で命令口調や行動を制止する言葉がけがあれば、その場で注意しています。表玄関はオートロックですが、各階フロアは施錠せず、出て行きたい様子が見られたらその思いに寄り添い出かけるなど、閉塞感がないように支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修で年に1回、高齢者虐待について、どういことが虐待に当たるのかを学び注意喚起できている。グループワークを行い職員同士で虐待について話し合える場も作っている		

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階で該当される入居者様はいらっしゃらないが、今後に向けて活用できるよう所内研修や所外研修の場で学習の機会を得ている。また参加できなかった職員は研修の資料を閲覧している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族様、またはご本人に内容を説明を行っている。その際、重要事項説明書等を事前にお渡しし通覧をお願いし、不明な点に関しては、ご連絡を頂き説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置している。年に2回家族会の時にアンケートを行い意見を募っている。参加されない家族様には個別で郵送し無記名で返送していただいている。アンケート結果は玄関に掲示し家族様に配布している。頂いた意見を取り入れ改善に取り組んでいる。	玄関に意見箱や常任理事長宛の葉書を置き、要望や意見を出せるようにしたり、運営推進会議、家族会、ケアプランの説明時の他、面会時には利用者の様子を情報として伝え、意見を言ってもらいやすいよう配慮しています。家族アンケートの実施では書き方の工夫を行い、欠席者には郵送をし、結果は次回の家族会で報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい環境作りとして職員間でミーティングを行い、課題について意見交換をしている。課題になったことを運営会議で話し合い、現場の意見を確認しながら改善に取り組んでいる	現場の意見が出しやすいよう職員交流ミーティングの場を設けたり、ミーティングで職員の意見や提案を聞いています。非常勤職員には都度声をかけ意見を聞いたり、随時個人面談も行っています。職員から業務改善についてや研修希望、他フロアへの異動の希望が出されています。出された意見は運営に反映できるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人ではストレス等に対する相談窓口が設けられた。過度な業務で残業にならないよう配慮し、面談の機会を持つなどして職員個々の職場環境改善に努めている。今年度は行動目標に「職員の希望を叶える」掲げ取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した際、学術賛助金が年に1回、全員の職員に支給される。法人内・施設内外の研修で、職員個々に見合った研修があれば個別に声を掛けるように配慮し、業務として参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークの勉強会や旭区内でのグループホーム連絡会に参加したり、他の施設への1日訪問をさせて頂いた事で、情報交換や勉強の場となっている。また全国グループホーム協会、大阪支部での介護実践発表を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が直面している問題や状況の本質等を理解する為に、できるだけ入居前にアセスメントを行っている。また各職員が関わりの中で得た情報を早急に話し合い共有する事でご本人との信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも詳しく入居前にアセスメントを行っている。時間の許す限り、お話しのお話を伺う機会を持つよう努めて、お互いの理解を深めていけるような関係作りを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や入居者様のお話をよくお聞きした上で今、何に困っておられ、どのような支援を必要とされているかを判断し出来るだけ希望に添えるような対応に努めるが、当施設で支援できない場合はご説明し検討していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重しながら、出来ることは行って頂き、できない所は職員が少し援助する事で行っていただけるような対応をしている。職員と入居者様が一緒に楽しめる日常が過ごせるように取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の近況や行事などのご案内を面会の時だけでなく、お手紙や電話などでご報告している。遠方の御家族様には、お写真をお送りするようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やご本人の意向に沿えるように聞き取りを行い、馴染みの理容店やスーパー等にへ出かけていただくようにしている。近くに住んでおられた方が手土産を持って訪ねてこられ居室にて楽しい時間を過ごされることもある	以前の近所の方が面会に来られた際には居室へ案内し、ゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。利用者から聞き取った情報から家族に協力を依頼し、家族と馴染みの理・美容室へ行かれる方や墓参り、商店街、スーパーへ買い物に出かけています。電話の取次ぎや携帯電話の充電、暑中見舞いや年賀状の投函を手伝う等、馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話の内容やその方々の表情等に留意し円満なコミュニケーションが図れるように配慮している。居室で過ごされる時間が長い方は、職員がお声を掛けてフロアに出てきて頂くような機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去されたご連絡を頂いた場合、御参りさせて頂いている。また退去された後、ご家族様にお手紙をお出ししている。その後も、ご連絡等が有ればご相談や支援をさせて頂くが、特にこちらからの働きかけは行っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望は基本的にはご本人にお伺いしているが困難な場合は家族様に聞き取りを行いご本人の思いに可能な限り寄り添えるようにしている。ケアプランに反映できるようにカンファレンスを行い話し合いをしている	面接時に本人・家族から生活歴や趣味等を聞き取り、思いや希望を把握するようにしています。関わりの中で気づいた情報や発した言葉から思いの把握に繋がるよう場合は介護記録に記入しています。思いの把握の困難な時は家族に聞いたり、以前のケアマネジャーの情報や利用者の表情、しぐさから思いを汲み取り、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人や家族様にお尋ねするようになっている。入居後も思い出されたり、ご本人の言動で気づく事もあるので、継続して情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の心身状態などの変化を見逃さないように日々、観察を行い、また発せられた言葉を聞き逃さないようにしている。気づいたことがあれば記録に残し、申し送りする事で職員間での情報が共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行うときは全員が参加できないためにコメントシートを作成し、職員個々の意見を書くようにしている。モニタリングの時にも家族様のご意見を伺うようにしている	本人・家族の思いやアセスメントを基に初回の暫定プランを立て、1ヶ月後に評価と見直しを行い、3か月目でも見直しをしています。以降基本は6ヶ月毎に更新し、変化があれば随時見直しをしています。毎月モニタリングを行い、3か月で評価をする際にはサービス担当者会議で職員の意見を聞いています。欠席者には事前に意見を求め、関係者の意見も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護日誌を記入している。気づきや工夫なども記録に残す事で職員間で情報が共有でき介護計画の見直しに繋がっている。問題が生じた時は直ぐにカンファレンスを行うようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が受診同行できない時は管理者や職員が対応している。必要物品の購入、区役所へのオムツ申請の手続きや介護認定調査の書類記入・投函、入院された際の手続きや衣類の洗濯も行っている		

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と連携し避難訓練を行っている。地域の盆踊り、ふれあい喫茶、防災訓練などの催し物に参加され楽しんでおられる。民生委員の方がお持ち下さった季節の花や絵手紙を飾らせて頂き入居者様に喜んで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけの医師との継続を希望されるか確認を行っている。ご本人や家族様が希望された時はかかりつけ医に受診をしていただいたり、個別に訪問診療を受けていただいている	これまでのかかりつけ医の訪問診療を2週間毎に受ける方や皮膚科は家族や職員が対応し、情報交換は手紙で行い、結果の報告もあります。協力医は月3回訪問診療に来られ、また、眼科や精神科、歯科の訪問診療を必要な方が受けています。管理者が看護師であり、医療機関との連携や情報の共有が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師である為、入居者様の体調の変化については介護職より報告し指示を受けている。必要に応じて訪問看護師に依頼し、情報の共有を行い対応についてもアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される時には介護サマリーを作成して情報提供をしている。法人内の病院に入院された時には地域連携室との連絡を密にとる事が出来ている。また管理者が看護師である為、早期に退院されても適切な看護が行えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化指針、看取り指針に基づき説明を行っている。延命処置が必要な時の意思確認書も頂いている方もおられる。終末期を迎えるにあたり、どこでどのように過ごされたいか、ご本人や家族様と医師と十分に話し合いを行っている。今年度も3名の方の看取りをさせていただき看取り後のカンファレンスも職員間で行っている	契約時に重度化や看取りの対応指針に基づいて看取りの支援も出来ることを説明し、点滴や吸引もできる看護師が職員として配置されています。その時々々の状況の変化により本人、家族の意向の確認を行い、都度医師が説明し、家族の協力のもと最期をホームで過ごされた方があります。また職員の不安を取り除き適切なケアができるようケース毎にケアの方法等、支援を振り返り話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて所内研修を全ての職員が受けている。緊急時対応マニュアルと入居者様個々の対応についてのマニュアルがあり職員は熟読しており、また直ぐに見えるように掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の防火訓練は夜間を想定し定期的に行っており、地域の方にも声をかけさせていただき参加していただいている。運営推進会議の場でも話し合いを行っている。近隣の小学校で行われた地域の防災訓練に入居者様にも参加していただいた	年2回行われる防火訓練の内1回は消防署の協力を得て夜間を想定し、利用者も参加しています。出火場所の確認、通報、初期消火、避難誘導の訓練を行い、消防署からの指導ももらっています。運営推進会議で話し合い、自治会長顧問の参加も得られ、地域の防災訓練には利用者も参加しています。地域の役員の方には個人情報に配慮し、利用者の状況を知ってもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月接遇チェックシートで言葉使い、声のトーン、プライバシーの保護に関して自己チェック、主任がチェックを行っている。不適切な場合はコメントを記入し注意を促している	接遇マナーについて毎月チェックシートで身だしなみや言葉遣い等、自己評価や他者評価を行い振り返っています。不適切な時にはチェック表に記入して注意を促しています。排泄時は羞恥心に配慮して耳元で声かけや誘導を行い、訪室時にはノックをして声をかけ了解を得たり、誰が聞いても気持ちの良い言葉遣いや丁寧語を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の要望を常にお聞きするよう心掛けている。ご自身で希望を発せられない方は日頃の様子から希望をお察しするようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、ご本人の希望に添った支援が行えるように努めている。一日の流れの中で食事やレク活動、お手伝いのお声掛けをするが無理強いはせず本氏のペースに合わせた対応を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にご自分でできる方には声掛けをし、出来ない方には職員が整容を行っている。毛染め希望時は家族様にご連絡し美容院に行かれ、顔そり希望時は訪問整容を利用されている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や盛り付け、食器拭きも入居者様にお手伝いをお願いしている。同じテーブルで可能な時は一緒に食事をしている。時々外食に出かけて頂き違う雰囲気を感じて頂いている	献立は利用者に聞いて職員が立て、業者から毎日食材を配達してもらい、利用者は皮剥きや炒め物、玉子焼き、食器洗い、片付け等、出来る事に携わってもらっています。食事の際は職員も一緒に食べる団欒を心がけています。うなぎや寿司の出前の他、外食では回転寿司やお好み焼きを食べに出かけています。手作りおやつや誕生日には食べたい物を聞いて作るなど、楽しみごとの支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の方の状態に合わせて食器や盛り付けを工夫し刻みやミキサー状にしたリトロミをつけ摂取しやすいようにしている。メニューが重ならずバランスが取れるように気をつけている。食事摂取量の少ない方には経腸栄養剤が処方されている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと見守りを行っている。介助が必要な方は職員が歯ブラシ・スポンジブラシで口腔内のケアを行い、義歯は定期的に義歯洗浄剤を使用している。また訪問診療の歯科衛生士に必要な場合は指示を受けている		

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿に関しては個々に排泄状況をチェックしている。可能な限りトイレで排泄して頂くように表を見ながらトイレ誘導を行っている。排便は排便チェック表にて毎日確認を行い申し送り時に伝えている	個々の排泄表の記録で排泄パターンを把握し、その方のペースや状況を見守りながらトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。紙オムツの方が支援の結果失敗が減り布の下着とパッドの種類を変えた方や利用者の行動やサインを察知しトイレ誘導を行いトイレで排泄が出来るようになり表情が穏やかになった方もおられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記入を徹底し、申し送りでの伝達を行っている。起床時に水や牛乳の提供、多めの水分摂取、献立には乳製品・食物繊維の多い食材を提供している。必要に応じて腹部マッサージも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助量の多い方の入浴に関しては2人介助で安全に浴槽内に入って頂けるように調整を行っている。希望を確認しながら同性介助を行い、入浴がお好きな方はケアプランに取り入れて実施しているが時間の希望に関しては希望に添えない時もある	3日に1回を目途に13時30分から15時の間に入浴してもらっていますが、希望で隔日に入っている方もいます。袖子湯や入浴剤を用い、富士山の絵を飾ったり、窓を開け露天風呂風に音楽も流す等、入浴を楽しめるよう工夫がなされています。拒否される方には時間や人を変えて声かけを行い、無理強いはせず清拭や足浴で対応することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の個々の生活習慣や心身の状態、ペースに合わせ休息や睡眠がとれるよう配慮している。夜間は無理な就寝を勧めず温かい飲み物の提供やテレビを観たり、雑談を交わす事で本人の心情やペースに合わせた支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更は管理日誌・申し送りノートに記載、申し送りで伝達、その後の様子は日誌に記録、処方箋を個人ファイルに綴り、情報の共有を図っている。身体症状に変化があれば管理者に直ぐ報告し指示を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力を考慮して洗濯や食器拭きなどの家事をお手伝いして頂いている。買い物や食事、お墓参りなど本人が希望されることを個々に提供するように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出計画が有る時には本人様の興味のある所に行っていたりするように配慮している。地域のお祭りに参加した時には地域の方も協力してくださっている。長距離での歩行は困難な方が多く、車椅子が必要となり、職員配置の状況により一度に外出していただける方に制限がある	日常的に外出が出来ていない状況ですが、気候の良い時は庭に出て外気浴をしています。公園や菖蒲園へ桜の花見に出かける際は、順番に全員が行っています。夜に盆踊りを見に行ったり、日帰り温泉に出かけることもあります。初詣で神社に行く予定を立てており、今後外出の機会を増やしたいと考えています。	

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持されている方もおられる。ご自身で買い物が出来るよう見守る事で自信や意向、自主性に配慮している。お金をお預かりしている方については職員が本人の希望に応じて購入を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方がおられる。他の方は本人や家族様の希望や意向を確認し電話をおつ繋ぎしている。年賀状や書中見舞いは個々の方の状態に合わせて下書きを書いたり、スタンプを作って押して頂いたりという支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には楽しい時間を振り返っていたできるように写真を掲載を掲示し写真を見ながら入居者様と談笑することもある。リラクセスしていただけるようにBGMでオルゴールをかけたり、四季を感じていただけるように定期的に壁画を変えている	季節を感じてもらえるよう玄関やリビングには花クラブで活けた花を飾り、四季に応じた壁画や外出時の写真等の掲示は利用者と職員のコミュニケーションに活用しています。テーブルの配置や気の合った方が居心地よく過ごせる場所作りの工夫をしています。温・湿度管理や加湿器を置き、朝と夜に清掃を行い、清潔で気持ちよく過ごせる共用空間となるよう心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は入居者同士の相性を考慮したものとなっている。座席の移動を希望された時は都度、ご希望に添うように移動して頂いている。他階に気の合う方がおられる方には両方の居室を歩き来して楽しんでおられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものがあることでご本人が安心して暮らして頂けるよう、自宅で使用されていた仏壇やテレビなどを配置している。お部屋でゆっくりと本を読まれたり、テレビ観賞などされる方は家族様と相談し座りやすい椅子を購入して頂いたりしている。	クロゼットとエアコン等が備え付けられ、安心して過ごせるよう馴染みの物を持参してもらえよう依頼しています。本人の身体状況により平行棒を置き、自力で移動できるようにする際は、家族に相談し安全面にも配慮し配置を工夫されています。自宅の表札や筆筒、テレビ、三面鏡の他、家族の写真や仏壇、位牌、動物の写真等大切にしている物を配置し、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒再発の危険がある方に対して、夜間は手すり替りの椅子や平行棒を設置したり、居室内の壁角に衝撃を和らげる為のクッションをつける等して、個々の方の状況に合わせた工夫を行っている		